

日本医師会医学賞に荒木氏

熊本大教授 糖尿病の病態解析



荒木栄一教授

2017年度の日本医師会医学賞に、熊本大大学院生命科学研究所代謝内科学の荒木栄一教授(59)が決まった。糖尿病の病態解析や新たな治療法の開発などが評価され、11月

1日に東京都で表彰式がある。同賞は1961年に始まり、毎年、臨床医学や基礎医学、社会医学の分野で業績があった3氏に贈られる。熊本大関係では昨年度の小

川久雄・国立循環器病研究センター理事長に続き6人目。

荒木教授の受賞理由は「糖尿病病態の分子生物学的解析と新規糖尿病治療法開発への応用」。血糖値を下げる働きがあるホルモンの一種インスリンが、細胞表面にある「インスリン受容体」と結び付き、作用を伝えるメカニズムを解明。血糖値を調節する信号を細胞内で伝えるタンパク質「IRS-1」なども突き止めた。

また、熱を加えると細胞内で増える特殊なタンパク質が、糖尿病

やメタボリックシンドロームを改善することを証明。温熱と微弱電流を体に当てる新たな治療法として研究を進めている。

荒木教授は熊本市出身。1990年に熊本大大学院医学研究科修士。米ハーバード大医学部研究員などを経て2000年から現職。

本年度の同医学賞は荒木教授のほか、東京大大学院の高柳広教授(免疫学)、京都大大学院の小泉昭夫教授(環境衛生学)に贈られる。(林田賢一郎)